

## 枚方市相談7支援センターまとめ

### 1. 令和3年度全体状況

令和3年度は、前年度から引き続き新型コロナウイルスの流行による影響を受けた一年であった。前年度では、感染者の増加により、通所事業所が閉所や時間短縮などの対応を取っているところが多かったが、今年度においては感染対策を徹底し活動を制限しながら開所する事業所が多かったように思う。しかし、個別で見れば、短期入所の閉所や移動支援の利用の自粛、ヘルパー不足により外出する機会が減少し、いつもの生活が出来ず調子を崩す人や、家族との距離が取れず、本人も家族も疲弊して相談に来られる人もいた。また、居宅介護事業所の現場では、スタッフやスタッフの家族の感染により、通常のサービスの提供が難しくなる事もあり、不安を訴える利用者もいた。入所施設や精神科病院においては出入りが制限され、利用者がどのように過ごしているのかが外部からは見えにくく、支援が難しい状況を生み出していた。

近年、障害福祉サービス事業所が枚方市においても増加しているが、中には、利用者の状況によって契約を解除する事業所もあり、繋がった利用者に対して事業所としての責任のあり方等、支援の質が問われている。また一つの事業所で抱え込まず、支援センターや市役所障害支援課、関係機関と役割分担を行なう等、連携できる支援体制を作っていくことも必要である。

相談の中には、親亡き後の生活の相談を受けることもあるが、精神障害者を除けば枚方市には一人暮らしを体験するための場（事業）を行う事業所がほとんどなく、利用の為に他市まで行かなければならなかった。また親の入院等緊急でショートステイを利用しなければならない場合があっても、受け入れる事業所がなかなか見つからないといった現状がある。これらの課題解決のために、次年度に整備することになっている地域生活支援拠点事業の実現が望まれている。枚方市として、面的整備をしていく方向ではあるが、様々な地域資源を視野に入れながら具体的な方策を練っていく必要がある。

### 2. 枚方市全体相談件数について

相談支援実人数は、前年度に比べ149名増加した。

支援方法は、来所相談が380件と大幅に増加している。訪問も増加しており、利用者と直接会う支援は増加傾向であり、電子メールは半分に減っている。電話相談が1,257件増加している。これは事業所ごとのカウントの仕方の違いもあるが、特に精神障害のある人からの相談では、特定の人からの相談が毎日のようにあったり、症状の波により頻繁に相談が入る時期があったりすることもあり、件数に変化が出やすい特徴があることも考えられる。カウントの仕方については今後調整を図っていきたい。同じ1件でも短時間のものから1日かかるものもあり、支援を数字だけで現わすことが難しく、また相談によっては事前の準備が必要であったり、関係機関への助言の中には件数として挙がらないものもある。

支援内容は、「福祉サービスの利用等に関する支援」が3,419件と最も多く、全体の25%となっており、続き漠然とした不安や将来の不安等の相談である「不安の解消・情緒不安定に関する支援」が2,553件と全体の18%、幅広い日常生活の相談である「生活技術に関する支援」が2,243件と全体の約16%であった。昨年度より「不安の解消・情緒不安定に関する支援」が1,000件以上増加しているが、電話相談の多くがこの内容になるため増加している。

詳細は各支援センターの報告をご覧ください。